

浄泉寺報

第13号
2018年
お盆



今年の浄泉寺本堂での盂蘭盆会の様子

なにが有り難い？ (三)

「きとりとは何か、

浄泉寺住職 望月廣三

前号(第十二号)の決着をつけよう。

俳聖、正岡子規が悟った言葉、「悟りとは平気で死ぬことではない。平気で生きることだ」とはどういう意味なのか。このことについてのはつきりさせよう。

まず、「平気で死ぬ」についてだが、なぜこれが悟りでないのか。子規は、はじめ悟りはこれだと思っておられたようである。しかし後に、これは間違いだと気づかれた。そう告白されている。その理由は審らかにしていないが、考えてみるに、平気で死のうとどう死のうと、死後の世界には「救い」はないということだ。この世に絶望して、あの世に救いを求めても救いはない、ということである。なぜかという、それは、Aという場所からBという場所へ移行するだけのことなのだから。

どうしてそんなことが言えるのか？死後に救いを求めても救われないのか？では、どうしたら救われるのか。救いはどこにあるのか。大いに疑問をいだくだろう。このことでまず考えねばならないのは、お釈迦様の教えでは、この世(此岸)とあの世(彼岸)とは地続きでつながっている、ということ。この教えから推し量ると、どうやら死後の世界に極楽があると、この世に厭気がさし極楽に行っても、そこでまた極楽に厭気がさすのでないか、ということ。つまり、この世に絶望してあの世に救いを求めても、そこには絶望しかない、ということ。そのことを子規は見抜いておられて、死ぬことに意味を見出さなかつたのでないか、と思うのである。

このことを親鸞聖人の教えから考えてみると、聖人は迷いというのは「苦しい辛い日々から逃れるために、人生を享樂する」そういう生き方だと言われている。その反対に悟りとは、迷いを深く認識して、苦しい空しい日々を無駄にしないうことだ、と。子規は脊椎カリエスという、地獄の苦しみを生き抜いた。まさに七転八倒の苦しみであったという。が、その病苦の中から歌集『竹の里歌』、随筆『病牀六尺』などの傑作をものする。疾病利得(病気をすることによって得られる利益)という言葉がある。まさしく子規はそれであった。脊椎カリエスという、当時においては致命的な打撃を、「俳諧」に生かしたのである。この執念こそが「平気で生きる」であり、子規の悟りだつたのだろう。

煩惱はたしかに迷いをもたらす病原菌だけれども、しかしこの病原菌に冒されなければ、けつして迷いに目覚めることはないのである。迷わねば救いはないという道理が、それである。(了)

お内仏(仏壇)に座る ⑪ ～ お墓参り ～

「されば朝には紅顔ありて夕べには白骨となれる身なり」という言葉が、蓮如上人の書かれたお手紙である『御文』にあります。この『白骨の御文』は、お葬儀の後、火葬場からお骨をお迎えする時のお勤めで拝読することが多いのですが、現代の言葉にすれば“毎朝目覚めた時には、明日を疑うことすらない人間ですが、ひとたび縁が催せば、夕方には命終えて白い骨となってしまう、そんな儚いこの身を背負っているのが、私の事実なのです”（意識）というような意味になります。

亡くなった方のお骨を納めたお墓に手を合わせる、それは、亡き人を偲びながら、誰もが100%絶対に命を終えていかなければならないという、この身の逃れようのない事実にあらためて思いをさせ、不思議の中に生かされている「今」を確かめていくということに他なりません。

お念仏の教えに出遇った方のお墓には「南無阿弥陀仏」という仏様のお名前(名号本尊)が彫ってあります。「本尊」とは“本当に尊いこと”ということです。良いも悪いもまるごと引き受けて命を終えていかれた方＝「諸仏」から私たちは、「本当に大切なことに気づいて欲しい」と呼びかけ続けられているのでしょう。その声なき声に手を合わせ、静かに耳を傾けたいものです。

ちなみに、お墓とは別にお骨をおさめられる場所として、浄泉寺には納骨堂もあります。その他、京都の本山(東本願寺)や大谷祖廟に納めることもできますので、お気軽にご相談ください。

(浄泉寺若院・釋亜世)

平成30年(2018年)年忌表

ご法事(年忌法要)は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

詳しくは、浄泉寺までお問い合わせください。

一周忌	平成29年(2017年)亡
三回忌	平成28年(2016年)亡
七回忌	平成24年(2012年)亡
十三回忌	平成18年(2006年)亡
十七回忌	平成14年(2002年)亡
二十五回忌	平成6年(1994年)亡
三十三回忌	昭和61年(1986年)亡
五十回忌	昭和44年(1969年)亡

浄泉寺からのお知らせ

● 盂蘭盆会 ●

本堂でのお盆のお勤めです。ぜひお参りください。

八月十五日(水) 午後二時～

於：浄泉寺本堂 お勤め・住職法話

● 秋彼岸のお参り ●

九月のお彼岸の日程は、後日お葉書にてお知らせします。

● 同朋会 ●

浄泉寺では、毎月同朋会を開催しています。住職による法話の後、皆さんでお茶を飲みながら語り合います。どなたでもお気軽にご参加いただけますので、ぜひお誘い合わせお参りください。今後の日程等の問合せは浄泉寺まで。

<発行元・問い合わせ>

真宗大谷派 楠林山 浄泉寺

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43 電話 0799-22-4798